

平成二十三年 七月三日

東京電力福島第一原子力発電所で起きた事故から、もう少しで四ヶ月が経とうとしていきます。この事故の影響で、私達家族の生活は一変してしまいました。

今は、いつ、どんな時でも放射線を意識せずにはいられません。放射線を意識する生活は、外出などの行動範囲が狭まり、マスクやミネラルウォーターの購入など経済的負担も増え、また、常に放射線を意識しているため精神的にも追い込まれるようになりました。それでも、なんとか踏ん張っていられるのは、子どもたちのためです。できるだけ、子どもたちへの被曝を避けたいためです。

国は、放射線の影響について二言目には、ただちに健康に影響はない。と言います。確かに、今すぐには影響は出ないのかもしれませんが、五年後、十年後、更に二十五年後はどうなるでしょうか。放射線の影響は

晩突性と聞きます。そして、確率的であると
 も聞きます。被曝すればするほど、将来恐ろ
 しいことが起きる可能性が高まるのです。誰
 かが確実に体を蝕まれるのです。もしそれが
 我が子だったら？ 考えるだけで怖いです。
 恐ろしいです。近い将来、子どもたちを失う
 ことになるかもしれないなんて、この思いは
 言葉では言い表せません。
 それなのに、国や県や行政の対応は、子ど
 もたちを守ろうという姿勢は見られません。
 私は今、正直なところ、日本という国に対し
 て絶望感でいっぱいです。子どもたちを守る
 どころか、むしろ被曝をさせたがっているよ
 うにしか見えなからです。
 その一つが、給食における地産地消です。
 県は、福島農家を助けよう、などと言いま
 すか、そのために未来の福島を担う子どもた
 ちの健康が損ねられてもいいのじゃないか。
 たでさえ、外部被曝だけでなく大変な被曝量な
 のに、その上内部被曝までさせようとするな

なんて、本当に信じられません。
 そんなな国や県の姿に、戦中時の日本軍の最
 高司令部であつた「大本営」を重ねてしまふ
 のは私だけでしようか。私には、安心・安全
 をうたう国の姿は「大本営発表」のよう
 思えてしかたがないのです。

先日、福島市の子どもたちの尿から、セシ
 ウムが検出されたことを報道で知りました。
 恐らく、郡山市の子どもたちも検査をした
 ならば、同様の結果が出ることでしょう。

今から二十五年前のチエルノブイリの原発
 事故の際、住民には数年もの間事故の事実が
 隠されました。その間、チエルノブイリの子
 どもたちは汚染された牛乳を飲んでいたため
 内部被曝し、事故後四〜五年位経つた頃から
 小児甲状腺ガンを患う子どもたちが、急激に
 増えました。

郡山をチエルノブイリの二の舞にしてはい
 けません!!
 郡山の子どもたちを安全で、安心

No. 4

できる場所へ疎開させて下さい。私達は子どもたちの健康を、えして命を守りたいのです。

かけがえのない子どもたちの命を守るために、最良の判断が下されることを、切に願っています。